

令和8年度 シラバス

教 科	国語	科 目	論理国語	学年 学科 類型	2年 普通科 II型
単位数	2	教科書	精選 論理国語(三省堂)		
副教材等	精選 論理国語 学習課題ノート(三省堂)				

学習の目標	1 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしましょう。 2 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしましょう。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いましょう。
学習の方法	・必要な情報を収集し活用しながら他者との対話を通して、深い理解を目指します。 ・教材の解釈や報告、発表などの言語活動を積極的に行うことを通して、自己の思いや考えを深めたり広げたりします。 ・言葉を通して他者や社会に関わり、読書に親しむことで自己の向上を目指します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	・論理国語へのいざない ・「情報社会」を生きる I ・環境問題を考える	・評論を読み、論理的批判的に考える力を伸ばします。 ・読み比べを通して、情報社会を生きる上で大切なことは何かを考え、自分の思いや考えを広げます。 ・環境問題について調べ、その成果をまとめる活動を通して、他者との関わりの中で伝え合う力を高めます。
2 学期	・言葉を見つめる I ・生命について考える ・芸術について考える	・様々な視点から言葉について論じる活動を通して、創造的に考える力を養います。 ・様々な観点から生命について考え、生命科学の可能性と課題についての自分の思いや考えを深めます。 ・芸術作品と想像力について考え、美術作品の紹介文を書く活動を通して、他者との関わりの中で伝え合う力を高めます。
3 学期	・科学技術と人間 ・「市民社会」について考える	・科学技術と人間について考え、論理的、批判的に考える力を伸ばします。 ・「市民社会」における権利や義務について考え、自分の思いや考えを広げたり深めたりします。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「書くこと」、「読むこと」の2領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	国語	科 目	古典探究	学 年 学 科 類 型	2年 普通科 II型
単位数	2	教科書	高等学校 精選古典探究(第一学習社)		
副教材等	高等学校 精選古典探究 学習課題集(第一学習社)				

学習の目標	1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにしましょう。 2 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしましょう。 3 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養いましょう。
学習の方法	- 必要な情報を収集し活用しながら他者との対話を通して、深い理解を目指します。 - 教材の解釈や報告、発表などの言語活動を積極的に行うことを通して、自己の思いや考えを深めたり広げたりします。 - 言葉を通して他者や社会に関わり、読書に親しむことで自己の向上を目指します。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	- 古文編 説話(一) 随筆(一) 物語(一) - 漢文編 故事・寓話 古代の史話 名家の文章	- 二人の有名な歌人についての話し合い活動を通して、平安時代の古典常識や和歌について理解を深めます。 - 室町時代の随筆に見られる先人のものの見方や考え方を読み解く活動を通して、自分の考えを広げます。 - 貴族の生活と年中行事を調べまとめる活動を通して、我が国の伝統的な文化について理解を深めます。 - 友情に関する故事成語の由来を調べ、紹介し合う活動を通して、古典に親しみます。 - 読み比べ活動を通して、人物像とその考えを理解し、伝え合う力を高めます。
2 学期	- 古文編 随筆(二) 物語(二) 日記(一) - 漢文編 項羽と劉邦 漢詩の鑑賞	- 長編物語を読んで、人物造形や心理描写に触れ、我が国の言語文化に対する理解を深めます。 - 女性による日記文学作品を読み、先人のものの見方や考え方に触れ、自分の考えを広げたり深めたりします。 - 登場人物の描写を読み解くことを通して、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深めます。 - 漢詩の表現や技法への理解を深め、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを通して、自己の考えを広げ、伝え合う力を高めます。
3 学期	- 古文編 物語(三) 和歌・俳諧 - 漢文編 不思議な世界 諸家の思想	- 軍記物語を読んで、登場人物の行動とそれを支える思想や歴史的背景を理解し、自己の考えを深めます。 - 我が国の伝統文化の一つである和歌の表現の特色を理解し、先人のものの見方や感じ方、考え方を読み解く活動を通して、自分の考えを広げたり、深めたりします。 - 七夕伝説の由来の一つとなった説話を読み、古代中国の人々の想像力と天に対する考え方に触れ、豊かに想像する力を伸ばします。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。	「読むこと」の領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。
評価方法	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	定期考査、課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価	課題、レポート、ノート、小テスト、発表、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価

(備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	地理歴史	科 目	地理総合	学年 学科 類型	2年 普通科 II型
単位数	2	教科書	高等学校 新地理総合(帝国書院)・新詳高等地図(帝国書院)		
副教材等	新詳地理資料 COMPLETE 2026(帝国書院)、地理総合・探究ワークブック2026(愛媛県高教研地理歴史・公民部会地理部門)、高等学校 新地理総合ノート(帝国書院)				

学習の目標	社会事象の地理的な見方・考え方を身に付け、課題を迫及したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付けます。
学習の方法	- 教科書を基本教材としつつ、資料豊富な副教材も活用しながら学習内容の定着を図ります。 - 地図帳や作業地図などを活用して、自然環境、産業、人々の生活・文化、地球的課題などの特徴や分布状況を空間的な広がりの中で捉えていきます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1部 第1章 地図と地理情報システム 第2章 グローバル化する世界 第2部 第1章 生活文化の多様性と国際理解	- 身近にある様々な地図、GISやGPSの仕組み、情報を地図化する方法を学習します。 - 世界の国々が貿易、交通、観光などによってどのように結び付いているかを学習します。 - 人々の生活と地形、気候、宗教等の関連性を理解し、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性について学習します。
2 学期	第1章 生活文化の多様性と国際理解(2) 第2章 地球的課題と国際協力	- 人々の生活と地形、気候、宗教等の関連性を理解し、自他の文化を尊重し国際理解を図ることの重要性について学習します。 - 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題等を基に、地球的課題の解決について考えます。
3 学期	第3部 持続可能な地域づくり 第1章 自然環境と防災 第2章 地域調査	自然環境の特色と自然災害の関連性を理解し、地域社会で起こりうる自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	地理に関わる事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深めている。
評価方法	- 定期考査 - 小テスト	- 課題、レポート - 発表 - パフォーマンス評価	- ノート - ポートフォリオ評価

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	数 学	科 目	数学Ⅱ・B・C	学 年 学 科 類 型	2年 普通科 Ⅱ型
単位数	7	教科書	高等学校 数学Ⅱ・高等学校 数学B・高等学校 数学C（数研出版）		
副教材等	新課程 クリアー 数学Ⅱ＋B＋C(数研出版)、新課程 チャート式 解法と演習 数学Ⅱ＋B＋C(数研出版)				

学習の目標	自然現象や社会現象を考察するのに欠かせない概念や基礎的な知識を学び、事象を数学的に深く考察し処理する能力を伸ばします。そして、それを積極的に活用していく態度を育てます。
学習の方法	- 教科書と並行して、教科書傍用問題集「4プロセス」で演習を行います。予習・復習を徹底するとともに、疑問点の解消に向けて努力してください。 - 学習課題は必ず行い、提出物は期限までに必ず提出してください。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	数学Ⅱ 第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 数学Ⅱ 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 第2節 対数関数 数学B 第1章 数列 第1節 等差数列と等比数列 第2節 いろいろな数列	- 角の概念を一般角まで拡張して三角関数について学習します。 - 三角関数の加法定理について学習します。 - 指数関数について学習します。 - 対数関数について学習します。 - 等差数列と等比数列について学習します。 - いろいろな数列について学習します。
2 学期	数学B 第1章 数列 第3節 漸化式と数学的帰納法 数学B 第2章 統計的な推測 第1節 確率分布 第2節 統計的な推測 数学Ⅱ 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 第2節 関数の値の変化 第3節 積分法 数学C 第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形 数学C 第2章 空間のベクトル	- 漸化式と数学的帰納法について学習します。 - 確率変数と確率分布について学習します。 - 区間推定及び仮設検定の方法について学習します。 - 微分の考えについて学習します。 - 関数の増減と極大・極小について学習します。 - 積分の考えについて学習します。 - 平面ベクトルについて学習します。 - 空間のベクトルについて学習します。
3 学期	数学C 第3章 複素数平面 数学C 第4章 式と曲線 第1節 2次曲線 第2節 媒介変数表示と極座標	- 複素数平面について学習します。 - 放物線、楕円、双曲線について学習します。 - 極座標と極方程式について学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	関数関係や離散的な変化の規則性に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を身に付けている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善したりしようとしている。
評価 方 法	- 定期考査、小テスト - 発表 - 課題プリント - ノート	- 定期考査、小テスト - 発表 - 課題プリント - ノート	- 取組状況観察 - 発表 - 課題プリント - ノート

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	理 科	科 目	物理基礎	学年	学科	類型	2年 普通科 II型
単位数	2	教科書	改訂版 物理基礎 (数研出版)				
副教材等	物理基礎問題集 (愛媛県高等学校教育研究会理科部会物理部門編)						

学習の目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高めます。 2 目的意識を持って観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を養います。 3 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養います。
学習の方法	・身近な物理現象を話題に取り上げたり、観察、実験などの体験的な活動を行ったりしながら、物理学における基本的な概念や原理・法則が、実感を伴って理解できるように授業を進めます。 ・知的好奇心と、知識・理解を活用しながら探究する姿勢を維持し、演習問題に取り組みましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方 第2章 運動の法則 第3章 仕事と力学的エネルギー 第2編 熱 第1章 熱とエネルギー 第3編 波 第1章 波の性質 第2章 音	・等速直線運動や等加速度直線運動、落体の運動について学習します。 ・運動の三法則を理解して、物体に働く力を図示すること、運動方程式や力のつりあいについての式を作れるよう学習します。 ・仕事についての知識を基礎とし、運動エネルギーと位置エネルギーや力学的エネルギー保存の法則について学習します。 ・原子や分子の熱運動というミクロ的な視点から、熱と温度について学び、熱の移動や熱と仕事の変換についても学習します。 ・音波の性質を理解し、気柱の共鳴や弦の振動の探究活動を通して、知識・理解を活用する能力や態度を養います。
2 学期	第4編 電気 第1章 物質と電気 第2章 磁場と交流 第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用 物理学が拓く世界	・オームの法則やジュールの法則、電力量や電力について学習します。 ・交流の発生や送電の仕組み、電磁波の性質とその利用について学びます。 ・水力、化石燃料、原子力、太陽光などのエネルギー資源の特性や利用について、物理学的な視点から学習します。 ・既習事項が、日常生活や科学技術と結び付いていることを学習します。
3 学期		

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究している。	物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。
評価方法	・実験ノート、授業ノート(ポートフォリオ評価)、課題プリント(パフォーマンス評価)、定期考査	・実験ノート、授業ノート(ポートフォリオ評価)、課題プリント(パフォーマンス評価)、定期考査	・実験ノート、授業ノート(ポートフォリオ評価)、課題プリント(パフォーマンス評価)、定期考査

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	理 科	科 目	物 理	学年 学科 類型	2年 普通科 II 型
単位数	2	教科書	物理（数研出版）		
副教材等	物理基礎・物理実験ノート（愛媛県高等学校教育研究会理科部会物理部門編）・セミナー物理基礎＋物理（第一学習社）				

学習の目標	1 物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探究心を高めます。 2 目的意識をもって観察、実験を行い、物理学的に探究する能力と態度を養います。 3 物理学の基本的な概念や原理・法則の系統的な理解を深め、科学的な自然観を育成します。
学習の方法	・身近な物理現象を話題に取り上げたり、観察、実験などの体験的な活動を行ったりしながら、物理学における基本的な概念や原理・法則が、実感を伴って理解できるように授業を進めます。 ・知的好奇心と、知識・理解を活用しながら探究する姿勢を維持し、演習問題に取り組みましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期		
2 学期	第1編 力と運動 第1章 平面内の運動 第2章 剛体 第3章 運動量の保存	・ベクトルに関する知識・理解を活用して、平面内を運動する物体の運動、特に、水平投射や斜方投射について学習します。 ・身近な生活における大きさのある物体について、力のつり合いと力のモーメントのつりあいについて学習します。 ・運動量と力積の関係、衝突や分裂における運動量の保存、衝突におけるはね返りについて、実験を通して学習します。
3 学期	第4章 円運動と万有引力 第2編 熱と気体 第1章 気体のエネルギーと状態変化 第3編 波 第1章 波の伝わり方	・円運動や単振動について学習します。惑星の運動に関する法則や万有引力の法則についても学習します。 ・気体分子の運動論に基づき、理想気体の状態方程式、気体の内部エネルギー、熱力学の第一法則などを学習します。 ・波の伝わり方とその表し方についての理解を基にして、波の干渉と回折について学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究している。	物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。
評価方法	・実験ノート、授業ノート(ポートフォリオ評価)、課題プリント(パフォーマンス評価)、定期考査	・実験ノート、授業ノート(ポートフォリオ評価)、課題プリント(パフォーマンス評価)、定期考査	・実験ノート、授業ノート(ポートフォリオ評価)、課題プリント(パフォーマンス評価)、定期考査

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	理 科	科 目	化 学	学年 学科 類型	2年 普通科 II型
単位数	3	教科書	化学academia(実教出版)		
副教材等	化学基礎・化学問題集及び実験ノート(愛媛県高等学校教育研究会理科部会化学部門編)、セミナー化学基礎+化学(第一学習社)				

学習の目標	1 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けます。 2 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養います。 3 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養います。
学習の方法	・授業では、解説をよく聞き、板書等重要なことはノートに整理して記録してください。 ・観察・実験を行う場合は、「何故そうなるのか」を考えながら取り組むことが大切です。 ・小テストやプリント課題があります。学習した内容を振り返りましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	2章 物質の変化と平衡 2節 化学反応と電気エネルギー 1章 物質の状態と平衡 1節 状態変化 2節 固体の構造 3節 気体の性質	・1年時に学んだ電池を発展させ、電気エネルギーによる化学反応を学びます。また、電気エネルギーと物質量の関連についても学びます。 ・物質の状態を整理し、固体・液体・気体それぞれの状態における特徴や考え方を学びます。
2 学期	3章 無機物質 1節 元素と周期表 2節 非金属元素 3節 典型金属元素 4節 遷移元素	・周期表と関連させながら、無機物質の特徴を整理し、理解します。 ・非金属元素からなる物質の特徴と性質について実験を行いながら学びます。気体の発生方法や実験方法を整理します。 ・金属元素からなる物質の特徴と性質について、実験を行いながら学びます。沈殿の生成や工業的製法についても学びます。
3 学期	4章 有機化合物 1節 有機化合物とその構造 2節 脂肪族炭化水素 3節 酸素を含む脂肪族化合物 4節 芳香族化合物	・炭素原子を骨格とした有機化合物の特徴を整理し、理解します。 ・有機化合物のもつ性質や特徴、代表的な反応がいずれも官能基の性質と関連づくことを実験を行いながら学びます。 ・薬や染料などの物質との繋がりや製法について学びます。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究している。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。
評価 方法	定期考査、授業ノート、行動の観察、観察・実験の観察(パフォーマンス評価)、小テスト、実験レポート	定期考査、授業ノート、行動の観察、観察・実験の観察(パフォーマンス評価)、小テスト、実験レポート	定期考査、授業ノート、行動の観察、観察・実験の観察(パフォーマンス評価)、小テスト、実験レポート

- (備考) 1 1、2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	理 科	科 目	生 物	学年 学科 類型	2年 普通科 II 型
単位数	2	教科書	生物（数研出版）		
副教材等	・生物基礎・生物実験ノート(愛媛県高等学校研究会理科部会編)・スクエア最新図説生物neo(第一学習社)・改訂版リードLightノート生物(数研出版)				

学習の目標	1 実験・観察を通して、生物における様々な生命現象の共通性と多様性について深く学びます。 2 実験・観察を通して実験方法や観察方法、考察の仕方などの技術を習得し、自らが探究していく能力を高めていきます。
学習の方法	・「生物」の教科書や資料集等を用いて、生命現象のしくみを理解することが大切です。また、問題集を繰り返し解くことで、知識を定着させることも大切です。 ・実験・観察では、結果に対しなぜそうなるのかを深く思考し、考察することを心掛けてください。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期		
2 学期	第1編 生物の進化 第1章 生命の起源と生物の進化 第2編 生命現象と物質 第2章 細胞と分子	・生命の起源や遺伝子の多様性、進化のしくみ、生物の系統を学習し、生物の進化とはどのようなものか理解して、進化の視点を獲得します。 ・生体物質や種々のタンパク質について学習し、細胞を構成する物質と、細胞の構造や機能との関係について理解します。
3 学期	第3章 代謝 第3編 遺伝情報の発現と発生 第4章 遺伝情報の発現と発生 第1節 DNAの構造と複製 第2節 遺伝情報の発現 第3節 遺伝子の発現調節	・呼吸や発酵、光合成について学習し、代謝とはどのようなものか理解します。 ・DNAの構造や複製、遺伝子が発現するしくみ、遺伝子発現がどのように調節されているのか学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究しようとしている。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとするとともに、生命を尊重して自然環境保全に貢献しようとしている。
評価方法	・実験ノート、授業ノート(ポートフォリオ評価)、課題プリント(パフォーマンス評価)、定期考査	・実験ノート、授業ノート(ポートフォリオ評価)、課題プリント(パフォーマンス評価)、定期考査	・実験ノート、授業ノート(ポートフォリオ評価)、課題プリント(パフォーマンス評価)

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	保健体育	科 目	体 育	学年 学科 類型	2年 普通科 II型
単位数	2	教科書	現代高等保健体育(大修館)		
副教材等	現代高等保健体育ノート				

学習の目標	1 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けます。 2 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝える力を養います。 3 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養います。
学習の方法	・体づくり運動、球技・武道(選択)、ダンス・陸上競技(選択)を通して、自分で課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習活動を通して、心と体を一体としてとらえ生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育みます。 ・体育理論では、スポーツの文化的特性や現代スポーツの発展について学びます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	・体づくり運動 ・選択1 (球技【ソフトボール・バレーボール・テニス・バドミントン】・武道)	・体ほぐしの運動を通して体を動かすことの楽しさや心地よさを味わい、心と体が互いに影響し変化することを学びます。 ・球技では、各選択種目で特有の技能の基礎・基本を習得し、仲間と連携する楽しさを味わい、次の学年で高いレベルのゲームができるようになります。 ・武道では、相手を尊重するとともに、礼法などの伝統的な行動を大切にし、得意技を用いた攻防が展開できるようにします。
2 学期	・体づくり運動 ・選択2 (球技【サッカー・バスケットボール・テニス・バドミントン】・武道) ・体育理論	・実生活に生かす運動の計画では、各自のねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立てて取り組むことを学びます。 ・球技では、各選択種目で特有の技能の基礎・基本を習得し、仲間と連携する楽しさを味わい、次の学年で高いレベルのゲームができるようになります。 ・武道では、相手を尊重するとともに、礼法などの伝統的な行動を大切にし、得意技を用いた攻防が展開できるようにします。 ・技能と体力の関係や練習のしかたについて学習します。
3 学期	・陸上競技(長距離走) ・選択3 (球技【サッカー・バスケットボール・テニス・バドミントン】・武道) ・体育理論	・長距離走では、自分と向き合い努力すること、粘り強く相手と競り合う強い心を養うことを目標とします。また、ペース配分をしたり、ペースの変化に対応したりするなど主体的に取り組むことができるようになります。 ・運動の合理的な動きを理解し、必要な体力をトレーニングによって向上させることで、運動やスポーツを生涯にわたって継続していくための基礎を学びます。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。
評価方法	・パフォーマンス評価 ・小テスト	・課題レポート ・小テスト	・出席状況 ・行動の観察

令和8年度 シラバス

教 科	外国語	科 目	英語コミュニケーションⅡ	学 年 学 科 類 型	2年 普通科 Ⅱ 型
単位数	4	教科書	ELEMENT English Communication Ⅱ (啓林館)		
副教材等	Vision Quest総合英語 Ultimate 2nd Edition、 Vision Quest New English Grammar 47 WORKBOOK、英単語ターゲット1900、UPGRADE英文法・語法問題				

学習の目標	1 英語を理解し英語で表現しようとする、コミュニケーションへの積極的な態度を養います。 2 英語を読んだり聞いたりしたことに対する自分の感想をまとまりのある英文で表現できる理解力と表現力を習得します。 3 基本的な構文や文法、語彙を習得します。CEFRのB1以上の取得を目標とします。
学習の方法	・授業は、教科書の文章を読んでおくことが前提になります。授業中の言語活動に参加できるよう、音読と大まかな内容把握をした上で授業に臨みましょう。自分の力で取り組む習慣を継続しましょう。 ・英語を読んだり聞いたりしたときや英語で自分の意見を表現するときに、分からないことがあれば、辞書や文法書を利用して、自分で調べるようにしましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	Lesson 1 Cultures around the World Lesson 2 Power of Words Lesson 3 Preconception	・The Culture Mapを読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理します。 ・形式目的語のit、対応する能動態を持たない受動態を用いた文の構造を理解します。 ・Stay Hungry, Stay Foolishを読んで概要や詳細を理解し、行間を読みます。 ・複合関係代名詞、be動詞＋to不定詞を用いた文の構造を理解します。 ・How Did Pink Become a “Girl’s Color” in America?を読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理します。 ・付帯状況のwith、the＋比較級～、the＋比較級…を用いた文の構造を理解します。
2 学期	Lesson 4 The Century of War Lesson 5 How Our Minds Work Lesson 6 IT and Life	・Life in a Jarを読んで概要や詳細を理解し、行間を読みます。 ・さまざまな分詞構文、完了形の分詞構文を用いた文の構造を理解します。 ・Predictably Irrationalを読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理します。 ・itを用いた強調構文、助動詞＋have＋過去分詞を用いた文の構造を理解します。 ・A Long Way Homeを読んで概要や詳細を理解し、行間を読みます。 ・倒置、関係副詞の非限定用法を用いた文の構造を理解します。
3 学期	Lesson 7 Advances in Medical Technology Lesson 8 A Tiny Step, a Big Impact	・Putting iPS Cells into Practiceを読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理します。 ・that節をとる名詞、未来進行形を用いた文の構造を理解します。 ・How We Got to Now with Glassを読んで概要や詳細を理解し、情報を事実と意見に整理します。 ・whatを用いた強調、複合関係副詞を用いた文の構造を理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価方法	定期考査、パフォーマンステスト、小テスト	定期考査、パフォーマンステスト、レポート課題	言語活動への参加状況、パフォーマンステスト

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	外国語	科 目	論理・表現Ⅱ	学年 学科 類型	2年 普通科 Ⅱ型
単位数	2	教科書	Vision Quest English Logic and Expression Ⅱ Ace(啓林館)		
副教材等	Vision Quest総合英語 Ultimate 2nd Edition、 Vision Quest New English Grammar 47 WORKBOOK、英単語ターゲット1900、UPGRADE 英文法・語法問題				

学習の目標	1 英語で表現しようとする、コミュニケーションへの積極的な態度を養います。 2 より高度な表現や構文・文法を習得し、英文の内容や相手の意図を正しく理解し、自分の考えを効果的に表現できる英語力を身に付けます。 3 CEFRのB1以上の取得を目標とします。
学習の方法	・授業は、教科書の練習問題などを解答しておくことが前提になります。授業中の言語活動に参加できるよう、自分の力で解答する習慣を継続しましょう。 ・英語を読んだり聞いたりしたときや自分の意見を表現するときに、分からないことがあれば、辞書や文法書を利用して、自分で調べてみるようにしましょう。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学 期	Lesson 1 What is your future goal? Lesson 2 What school events do you have? Lesson 3 Who is the best athlete? Lesson 4 Is social media safe?	・子供の理想の仕事について書かれた文章を読んで、適切な主語の使い方を理解します。 ・学校で新しい友達を作る方法について書かれた文書を読んで、適切な動詞の使い分けについて理解します。 ・スポーツの歴史について書かれた文章を読んで、時を表す表現の概念を理解します。 ・ソーシャルメディアの使用で気を付けるべき点について書かれた文章を読んで、様々な助動詞の概念と文の構造を理解します。
2 学 期	Lesson 5 How does overusing energy affect us? Lesson 6 What are some culture differences? Lesson 7 Do all Japanese people need to speak English? Lesson 8 Is Japan open enough? Lesson 9 What if you were rich? Lesson 10 How might AI affect our lives?	・エネルギーの使い過ぎについて書かれた文章を読んで、名詞を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解します。 ・異文化理解の重要性について書かれた文章を読んで、関係詞によって情報が追加された文の構造を理解します。 ・第二か国語や外国語としての英語について書かれた文章を読んで、語句や文を修飾して情報を追加する様々な文の構造を理解します。 ・日本の社会の問題点について書かれた文章を読んで、直接話法と間接話法を用いて表した文の構造を理解します。 ・もし億万長者になったら、何をするかについて書かれた文章を読んで、仮定の概念と文の構造を理解します。 ・AIと共存する方法について書かれた文章を読んで、数量を表す表現の概念と文の構造を理解します。
3 学 期	Lesson 11 What is a healthy life? Lesson 12 What is important when we sell chocolate?	・健康とストレスについて書かれた文章を読んで、比較を表す表現を用いた文の構造を理解します。 ・商品の販売について書かれた文章を読んで、否定を表す表現を用いた文の構造を理解します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価 規 準	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
評価 方法	定期考査、パフォーマンステスト、小テスト	定期考査、パフォーマンステスト、レポート課題	言語活動への参加状況、パフォーマンステスト

- (備考) 1 1,2学期の定期考査は、中間・期末に行う。3学期は、学年末考査のみとする。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	情 報	科 目	情 報 I	学年 学科 類型	2年 普通科・理数科
単位数	2	教科書	情報 I ADVANCED（日本文教出版）		
副教材等	情報 I ADVANCED 問題演習ノート（日本文教出版）、ライフイズテック レッスン（ライフイズテック社）				

学習の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を身に付けます。
学習の方法	・情報を適切に活用するために、必要な知識と技術を確実に習得できるように、教科書と並行して、問題集「情報 I ADVANCED 問題演習ノート」で演習を行います。 ・学習課題は必ず行い、提出物は期限までに必ず提出してください。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 章 情報社会の問題解決 2 章 メディアとコミュニケーション 3 章 情報デザイン 4 章 情報のデジタル化	問題を発見・解決するための一連の流れを理解します。 知的財産について学習します。 情報社会で生活していくための情報モラルを理解します。 情報技術と生活の変化について理解します。 各種メディアの特性を理解します。 ネットワークの匿名性と記録性について学習します。 情報デザインの抽象化、可視化、構造化を理解します。 機能的なデザイン上の工夫について学習します。 2進法、10進法、16進法について学習します。 文字のデジタル表現について学習します。 標準化周期の標準化周波数について学習します。
2 学期	4 章 情報のデジタル化 5 章 コンピュータのしくみ 6 章 アルゴリズムとプログラミング 7 章 モデル化とシミュレーション 8 章 情報通信ネットワーク	データの圧縮について学習します。 デジタルデータのプラス面とマイナス面を理解します。 コンピュータ処理の基本的な回路と演算の仕方について学習します。 アルゴリズムの表現方法について学習します。 プログラムについて学習します。 モデル化の手法とモデルをもとにしたシミュレーションについて学習します。 情報通信ネットワークについて学習します。
3 学期	9 章 情報システム 10 章 データの活用	情報システムの信頼性について学習します。 データベースについて学習します。 データを可視化する方法を学習します。 相関関係と因果関係について学習します。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
評価方法	・定期考査、小テスト ・発表 ・課題プリント ・ノート	・定期考査、小テスト ・発表 ・課題プリント ・ノート	・取組状況観察 ・発表 ・課題プリント ・ノート

- （備考） 1 定期考査は1学期末、2学期中間・期末、学年末の計4回実施する。
 2 中間考査の評価は、考査の素点とする。

令和8年度 シラバス

教 科	S S	科 目	S T R E A M探究Ⅰ	学年 学科 類型	2 年 普通科Ⅱ型
単位数	2	教科書	本校で作成したプリントおよび資料		
副教材等	理科課題研究ガイドブック～どうやって進めるか、どうやってまとめるか～（千葉大学先進科学センター）				

学習の目標	1 「S T R E A M探究基礎」で身に付けた基礎的な知識・技能を生かし、観察、実験を伴う自然科学等に関する研究を行います。統計的探究プロセスを意識したデータの収集・分析、考察を通じて論理性を身に付けます。 2 大学や研究機関と連携を通じて専門性を高めていきます。
学習の方法	・地域や身近にある素材を主題にして課題研究を進めます。 ・専門家や卒業生メンターからの助言や先行研究を参考にしながら、科学実験や統計分析を通じた仮説の検証、考察などを行い、生徒が主体となって地域課題解決に向けた探究活動を進めていきます。

学期	単 元	学習活動とねらい
1 学期	1 課題研究① (1) オリエンテーション (2) 研究のプロセス再検証 (3) 出張講義 ・「科学実験入門」 ・物理系「放射性崩壊に伴う統計誤差の取扱いについて」 ・生物系「生物学的領域の研究における統計処理の基本」 (4) 課題研究 仮説の検証・実験・考察	・講演会、講義を通じて課題研究の取り組み方について学び、過年度の研究内容を知ること、自身の研究テーマの設定や仮説・検証の方法等について再検討します。 ・基礎理工、生命環境、総合科学の講座に分かれ、各講座別に専門分野の講義を受けたり、専門家から助言を受けたりする経験を通じて研究の道筋を考えていきます。 ・専門家による講義や実践演習などを通じて、統計処理のスキルを学んでいきます。フィールドワークや観察・実験を通して得られたデータを適切に処理する方法を学び、反映させることで研究の質を高めます。
2 学期	2 課題研究② (1) 検証・実験・考察のまとめ (2) 課題研究中間発表会 専門家、卒業生メンターによる指導・助言 (3) S S H講演会 (4) 論文作成	・研究計画に従って、フィールドワークや観察・実験等によるデータの収集とその分析・考察を行い、研究の成果をまとめていきます。 ・2学期中旬までの研究の成果をポスターにまとめて発表します。校外の専門家から指導助言を受け、今後の研究の方針等や実験の手法に改善を加えていきます。 ・ポートフォリオの内容や研究の成果について自己評価・相互評価を行い、改善点を洗い出すことで研究の質を高めます。 ・講演を通じて研究者・技術者に求められる心構えを理解したり、最先端研究に関する知見を広げたりします。学びをレポートにまとめ、課題研究に取り組む意義や進路実現・自己実現について考えを深めます。 ・課題研究の成果を論文にまとめます。
3 学期	3 課題研究③ (1) 論文及びプレゼンテーションの作成 (2) 講座内発表会 (3) 研究成果報告会 (4) 振り返り	・講義などを通じて環境問題、食や労働と健康にかかわる課題との関連を理解していきます。 ・統計的探究プロセス（P P D A Cサイクル）による研究の見直しを行ったり、連携する大学、研究機関の研究室から指導・助言を受けたりすることで、研究内容を改善します。 ・研究の成果を論文やスライドにまとめます。また、口頭発表に向けた準備を行います。 ・課題研究の取組や成果について、自己評価を行い、今後の課題について話し合います。

評価の観点と方法

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・宇和島市や南予地方の地域課題について理解し、研究テーマの設定、仮説の検証が行われている（農業・水産業・防災等）。 ・レポートの内容が正確である。	・論拠を示しながら、研究の内容について分かりやすくまとめられている。 ・適切なデータ処理をもとに、表やグラフ等を作成できる。	・講演会や研究に対し、事前学習、事後の振り返りを含め意欲的に取り組んでいる。 ・学んだことを生かし、仲間と協働しながら改善したり、深まりを持たせたりしようとしている。
評価方法	・小テスト ・ポートフォリオ評価（レポート） ・課題プリント（パフォーマンス評価）	・小テスト ・ポートフォリオ評価（レポート） ・課題プリント、発表会（パフォーマンス評価）	・実験、検証の取組状況 ・ポートフォリオ評価（レポート） ・課題プリント ・発表会（パフォーマンス評価）

（備考） 定期考査は実施しない。